

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY



平成26年5月19日（月）～平成26年5月25日（日）〔平成26年第21週〕の感染症発生状況

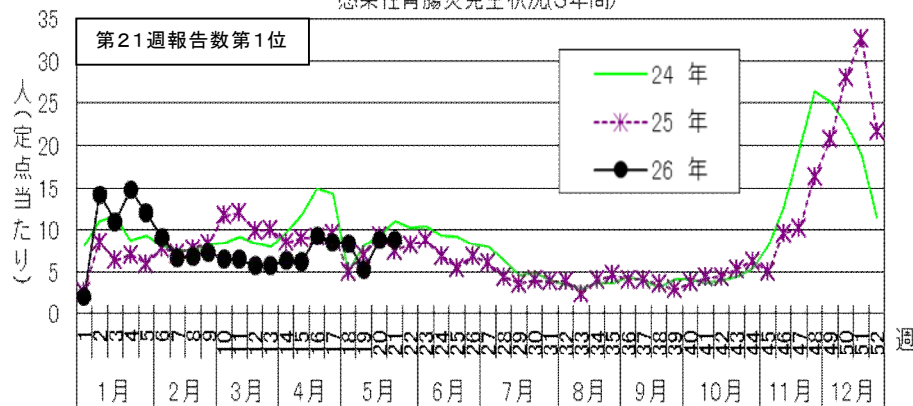
第21週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)伝染性紅斑でした。

感染性胃腸炎は定点当たり8.85人と前週（8.79）より患者報告数は増加しましたが、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。

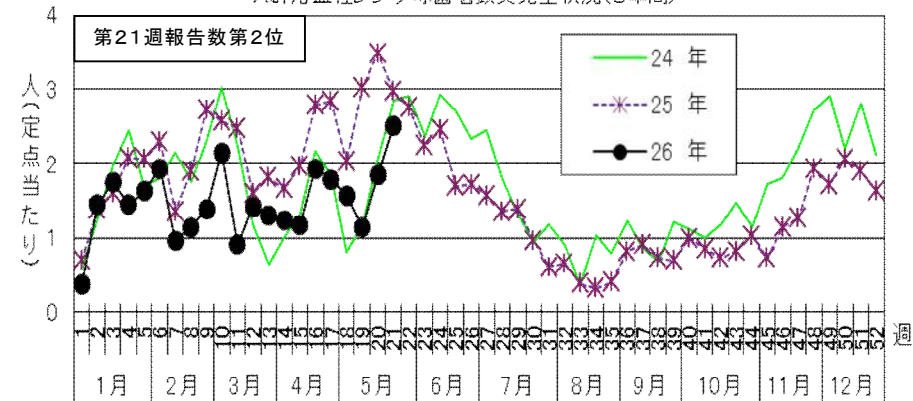
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり2.52人と前週（1.85）より患者報告数は増加しましたが、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。

伝染性紅斑は定点当たり0.88人と前週（1.03）より患者報告数は減少し、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)



気をつけたい感染症～A群溶血性レンサ球菌咽頭炎～

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の患者報告数が定点当たり2.52人となり、前週に比べ増加しています。例年、春から初夏（5～6月）や冬季（11～12月）に報告数が増えるため、今後の動向に注意が必要です。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは？

● 感染経路

感染者の唾液や鼻水への接触または飛沫（咳やくしゃみ等）で感染。特に小児（5～15歳）に多い。

● 潜伏期間：2～5日

● 症状

突然の発熱と全身倦怠感、咽頭痛で発症。体や手足に小さくて紅い点状の発疹が出たり、舌がイチゴのように赤くなる（莓舌）ことがあります。

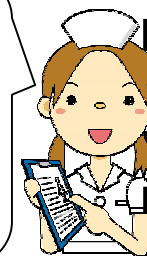
● 治療方法

抗菌薬が効果的であり、処方された薬は主治医の指示どおりしっかり服用することが重要。

● 予防方法

患者との濃厚な接触をさけることが最も重要。うがい、手洗いなどの一般的な予防法も徹底する。

合併症として急性糸球体腎炎やリウマチ熱を起こすことがあり、無治療の場合、重症化することもありますので、早めに医療機関を受診しましょう。



平成26年A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況

